

コミュニティ施設の活用により、世代間の枠を越えた人と人との交流ある街づくりを目指す

モトスミ・オズ通り商店街振興組合

機関名	モトスミ・オズ通り商店街振興組合		
所在地	神奈川県川崎市中原区木月389-505		
電話番号	044-411-5303		
地域概要	(1)管内人口 203千人	(2)管内商店街数 1商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 1	(2)会員数 121商店	
	(3)空店舗率 0%	(4)大型店空き店舗数 0	
商店街の類型	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成16年度 コミュニティ施設活用事業（複合施設）

- ・ 託児サービス事業や学生ボランティアとの連携による寺小屋の実施
- ・ 各種イベントの実施

総事業費

4,916千円

【事業実施内容】

1. 背景

川崎市は、神奈川県と東京都の境を流れる多摩川沿いに、東西に長く流れる人口130万人の都市であり、中原区は川崎市のほぼ中央に位置している。

モトスミ・オズ通り商店街は、東急東横線元住吉駅東口街区にあり、歴史が比較的長く、古くから商売を営んでいる商店が多い商店街である。地域に居住する住民を対象に地域密着型の商業活動を展開している。商店の入れ替わりはあるものの空き店舗は発生していない。



川崎市の地図（川崎市役所HPより）

将来の環境変化として課題となっているのが、東急東横線の高架工事の進行である。現在は踏み切りにより駅西街区と分断されているが、高架完成後は駅西側で集客力があるモトスミ・ブレイメン通り商店街に顧客流出する可能性がある。こうした状況下で当商店街が持続的発展を維持するためには、地域に根付いた「わが街の商店街」としての価値を発揮することが必要である。さらに高齢化・少子化社会が進展しつつある中、“地域コミュニティの形成”に貢献する活動が商店街にも求められている。

モトスミ・オズ通り商店街では、平成 14 年度に川崎市中小商業活性化事業「イメージアップ推進事業」制度を活用して、交流拠点の設置および交流会の開催という実験的な事業を行った。平成 15 年度には本事業により①コミュニティ施設の整備、②託児サービスの提供・寺小屋塾の開講、③イベントの開催を柱として活動に取り組んだ。平成 16 年度は平成 15 年度事業の結果を踏まえ、更なる事業の発展を図るため細部に工夫を盛り込み事業を実施した。

2. 事業内容

本格的な交流拠点として「街なかボランティア・ピース」というコミュニティ施設が設置されており、平成 16 年度は施設の維持管理と施設を活用した定常的な事業やイベント事業を、更にステップアップする形で行った。

(1) コミュニティ施設の維持管理

空き店舗を活用して設置したコミュニティ施設に人員を配置し、多様な機能を有する施設として運営を行った。

①管理調査員・保育士の配置

保育士の資格を持つ人材を地域内で開拓し、施設管理や託児サービスを行った。

②安全な子供受入体制の維持

保健所の指導を受けて整備した施設環境により、健康的で安全な子供の受入体制を構築した。



街なかボランティアピースの外観

(2) 定常的事业の強化

定常的事业として託児サービスと寺小屋塾を実施した。今後の中長期的継続を視野に入れ、運営方法を工夫した。

①託児サービス

平成 15 年度までは 1 時間を上限として、無料により託児サービスを実施していた。しかし保育士による質の高いサービスを提供するには大きな人件費が発生し、補助金収入を見込まなければ無料サービスを継続することは困難であった。そのため今後の安定的で継続可能な仕組みづくりを視野に入れ、平成 16 年度は有料化を図った。

- ・ 1 時間 1 人 1,000 円（商店街会員店で割引券発行により 500 円）で最長 2 時間まで可能



託児所の様子

②寺小屋塾の開催

慶應義塾大学ボランティア・サークルが毎週土曜日午後2時から4時まで、無料で寺小屋塾を開催した。本年度はイベントに合わせて外部専門家による特別講座の導入を図った。

- ・寺小屋塾特別講座「子供向け・お金の仕組み講座」
外部講師ファイナンシャルプランナーによる講義（平成16年12月11日開催）



寺小屋塾特別講座の様子

(3) イベントの開催

平成15年度に実施した「ボランティア・フェスティバル」では、無償で出演可能な団体を商店街側で招聘し、落語や音楽演奏等を提供したが、本年度は近隣小学校の生徒や一般組合員も交えた参加型での開催へとステップアップした。さらに開催回数を2回に増やし、「講習+実演型」のミニ・イベントも実施した。

①七夕ボランティア・フェスティバル

7月3日、4日に「願いが叶う」をテーマに、「七夕ボランティア・フェスティバル」を開催した。イベントに先立ち、近隣小学校や保育園の児童・園児達に願い事を短冊に書いてもらい、その中から実現可能性のある願いを3つ選び出した。イベント当日には、大学生が3つの願い事の実現をサポートする「願いが叶うかな？」というコーナーを実施した。

- ・開催内容：1)劇団ひとみ座による、人形的講習と大道芸
2)出合いのクイズ
(2人1組で32組による早押しクイズ)
3)仮装募金(大学生がオズの魔法使いのキャラクターに扮し、カンボジアの子供たちへの募金や支援物資寄付を呼びかけ)
4)日本赤十字社と連携しての献血
5)路上ライブ
6)小学生・保育園児の願いごとを叶える



七夕ボランティア・フェスティバル

②オズ・フェスタ

12月11日に、商店街組合員店舗の協力のもと、近隣小学校の児童が店頭で商品を販売する「こども商店街」をメインとした、「オズ・フェスタ」を開催した。

当日は子供達の「いらっしゃい。いかがですか?」といった声が街路に響き渡り、普段とは異なった商店街の活気が創出された。子供達へのお礼として商店街での買物券(当日のみ有効)を発行し、お店体験後は親子で買



こども商店街の様子

物体験を楽しんだ。

- ・開催内容：1)カンボジアの子供への募金・支援物資の収集（文具・古着）
- 2)こども商店街（木月小学校の児童による「お店体験」）
- 3)大学生と子供による劇「オズの魔法使い」（寺子屋塾成果発表）
- 4)大学生有志によるバンド演奏
- 5)慶應義塾大学落語研究会メンバーによる公演
- 6)シニア起業グループの「昔遊び」（竹馬や水鉄砲を手ほどき）

③講習・実演型のミニ・イベント

外部講師により講習とともに実演をしてもらいミニ・イベントを実施した。単に楽しむだけではなく、知識やノウハウの取得といったメリットを提供した。

- ・実施内容：1)人形劇団「ひとみ座」による人形劇講習と実演
- 2)アマチュアミュージシャンによる歌の指導と実演
- 3)マッサージ施術者による「タラソテラピー（海のエキスを利用したマッサージ）」の講習と実演

【 効 果 】

1. 商店街の認知度

マスコミ（NHK、TVK、ラジオ日本、FM川崎、地域情報誌、月刊誌他）の取材や県だより・市政だよりへの掲載により、多方面の方に興味を持ってもらうことができ、商店街の認知度が向上した。

2. 来街者の行動

学生ボランティアとの連携で行なったイベントで子どもの参加を促し、優しく楽しい商店街とのイメージを発信することができた。イベントに参加した親子が安心して来街するようになり、次のイベントの開催を期待している。

3. 情報交換機能

他の自治体や商店街、街づくりに関わる人や学生が来街し、見学や調査、意見交換をすることにより、他の地域の動向や考え方が分り、交流が深まっている。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 事業費の確保

コミュニティ施設の運営に必要な資金の確保が困難である。

2. 人的体制

託児サービスについては、利用者に安心感を持ってもらえるよう常に同じ担当者を常駐する必要がある、ボランティアによる体制づくりができなかった。

寺小屋とイベント実施は学生が主体だが、連携をしている大学のクラブに毎年新人部員が入部するか、新しい学生リーダーの考え方と商店街との間に摩擦が生じないかが心配である。

3. 店舗経営者に対する支援

コミュニティ施設運営により商店街の知名度を向上することができたので、今後は個店に対し何ができ、どうすれば個店に利益をもたらすことができるかを一番に考え、商店街の個店の発展に力を入れていく。

【事業の実施ポイント】

商業活動としてではなく、文化活動という面を考慮し実施していく。

【関連URL】

モトスミ・オズ通り商店街 <http://www.oz-doori.com/>